

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	阪神タイガース春季キャンプ受入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-I
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
 阪神タイガース春季キャンプは宜野座村にとって最も大きな観光資源の一つであり、球団にとって充実したキャンプを実施していただく為、受け入れ体制の強化を図る。キャンプ会場設営、グラウンド黒土購入、キャンプ期間中の清掃スタッフ等の確保、衛生品や消耗品等購入等を実施し、充実を図る。今後も本村でキャンプを継続していただく為、より良い環境づくりを図る。また、キャンプから波及した本村観光に繋げる。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	6,881	8,524	9,412	9,783	9,783
		(b) 予算現額	6,881	8,524	9,412	9,783	9,783
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	9,272
		A. 計(b+d)	6,881	8,524	9,412	9,783	9,783
		B. 執行済額	6,634	8,524	9,412	9,611	9,272
		うち交付金充当額	5,306	6,819	7,530	7,688	7,417
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	96.4%	100.0%	100.0%	98.2%	94.8%
		予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。不用額511千円については委託費の入札残や人件費の残、消耗品数量の減などによるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		目標	(設置)	(設置)	(設置)	(設置)
・野球場仮設ブルベン、防球ネット、エアアーチ、パワーテント等設置	実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了	
	目標	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	
・野球場、総合グラウンド黒土搬入	実績	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・春季キャンプ期間中、選手及び見学者が快適に練習・見学ができるよう、防球ネット設置、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり等設置、パワーテント等設置、選手、ファンの導線設置、球場内外の整備を行った。H30年度キャンプ実施一ヶ月前に常設ブルベンが完成の為、仮設ブルベンの設置無し。 ・阪神タイガースの合同自主トレ、春季キャンプの環境整備を図る為、野球場・総合グラウンドの黒土入替えを実施した。 ・清掃員や警備スタッフ等傭人を雇用し快適なキャンプ地を提供し観光資源の向上ができた。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
			目標	(見学者数70,000人)	(見学者数71,000人)	(見学者数85,000人)	()
			実績	見学者数111,300人	見学者数108,900人	見学者数100,100人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者数の算出方法として、阪神球団の公式発表を基に集計している集計している。目標の85,000人は達成できたが、昨年より来場者数が減少した。理由としてはキャンプの日数が昨年より一日減った事、練習試合が天候により一試合中止になったことが考えられる。テナント出店業者にも調査を行った結果、昨年よりやや減ったとの回答が多かった。 ・平成30年度春季キャンプは、昨シーズンの成績が最下位だった事、マスコミ、メディアの露出が少ない事によりキャンプ序盤は集客が少なかったが、球団のファンサービス、平日にも好カードの練習試合が実施された事がメディアで話題となり、多くのお客様が来村した。清掃員や会場スタッフを雇用し、臨時駐車場やシャトルバスを準備し誘客に努めた。 						

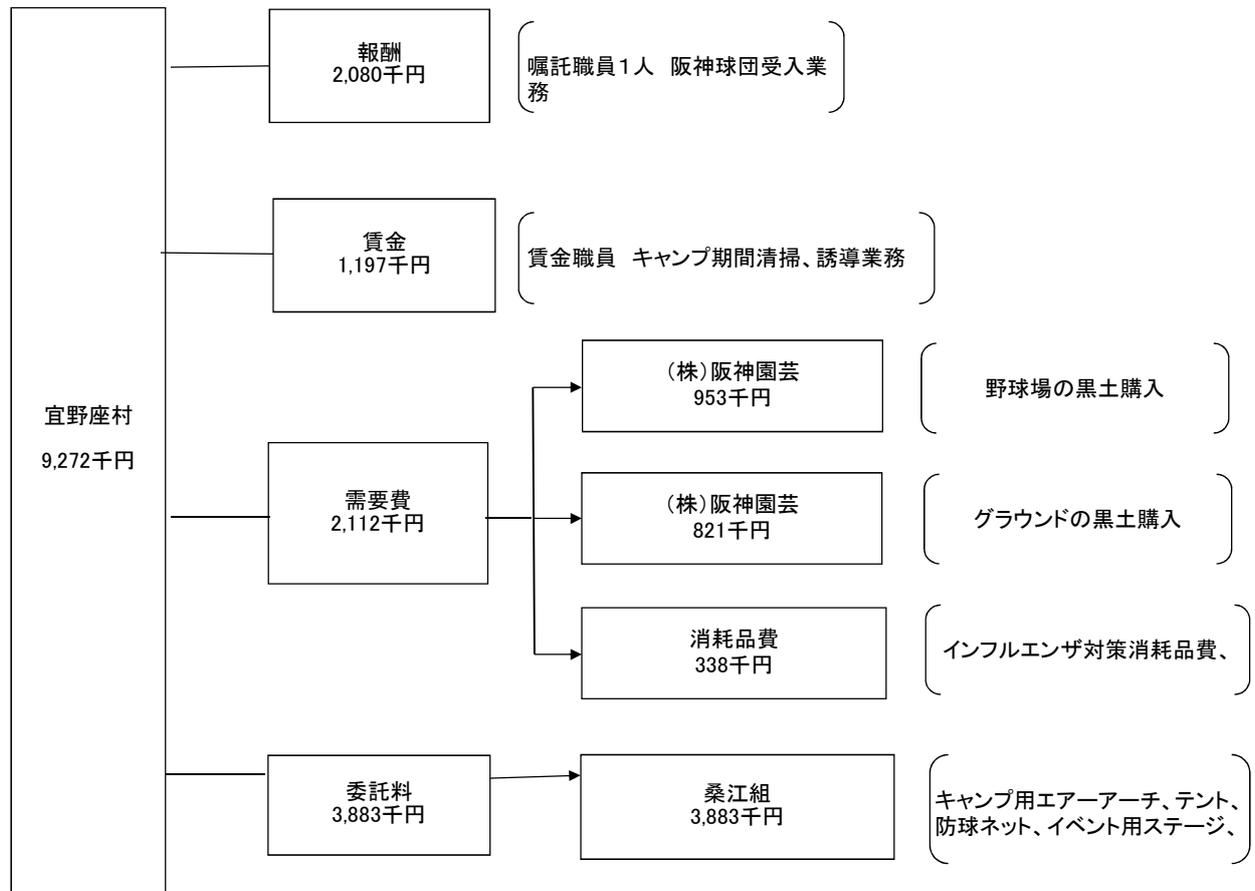
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度、阪神タイガース春季キャンプ観客動員数は100,100人となり、本村でもっとも大きな観光資源となっている。練習試合やサイン会、ファンサービス等を実施する日は会場が特に混雑する為、事前に事故を防ぐ必要がある。 観客の多くが観光バス、レンタカーを利用して来村するため、球場周辺は交通渋滞が起きている。交通事故を防ぐために球場内外の警備や誘導員を強化し、臨時駐車場の設置やシャトルバスを運行した。 見学者数については、チームの成績や人気選手の加入、天候、練習試合に左右される為、観客動員数の予測が立てにくい。今年度は前半は少なかったが、平日にも好カードの練習試合が実施された事が話題となり、多くのお客様が来村した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに多目的スポーツ施設とブルペンを建設したことによりキャンプの導線が大きく変わった。選手、ファンの安全確保のため立入禁止区間等の設置や混雑によるトラブルを防ぐなど対応し、今後も選手やファンにとってもより良いキャンプ地にする必要がある。 今後も会場周辺に警備や誘導員を設置し、路駐対策を行う。臨時駐車場を増やす。休日だけでなく混雑が予測される日は平日のシャトルバスの運行も検討する。 集客の多い練習試合、紅白戦やサイン会、新たなファンサービス等を増やすよう球団へ要望、協力していく。SNSを活用しキャンプ情報を発信する。

今後の取り組み方針

- 集客の多い休日での練習試合、紅白戦を増やすよう球団へ要望していく。
- キャンプ来場者に本村の別の観光施設へ繋げるようPRしていく。
- キャンプ情報の提供や阪神協会会員確保に向けて取り組む。
- 村観光協会及び村商工会と連携をしながら阪神キャンプを活用した観光振興、産業振興につなげる。
- 球団の本拠地である兵庫県及び関西からの誘客事業として新たな展開につなげるため、球団関係者、観光協会、商工会と連携していく。
- キャンプ期間中だけでなく通年で阪神タイガース球団と密に連携を取り、野球教室や学校訪問等のイベントの開催や実施を継続し、村全体でキャンプ地として盛り上げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,272	9,272	7,417	1,855	0



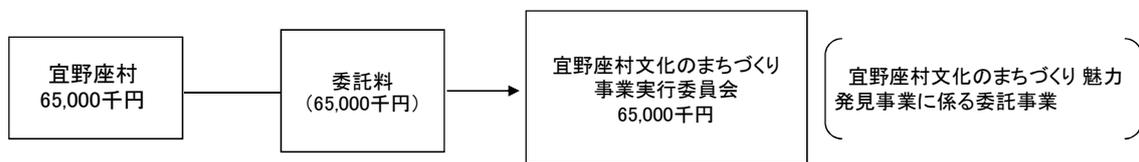
資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 予算規模については、見積りを徴収して精算しており、適正な規模であった。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-イ	
担当部課名	観光工商課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～令和3年 度	沖縄振興基本方針 該当箇所	交流と共創による農山漁村の活性化		
事業内容	宜野座村の文化・芸術・芸能の更なる振興発展と情報化・国際化に対応できる人材育成の拠点施設である宜野座村文化センターがらまんホールを中心に、文化イベント事業の開催や、お出かけアウトリーチ事業や国際交流イベント事業を行うことで、宜野座村の魅力を村外へ発信するとともに村の活性化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	13,000	13,000	18,000	16,000	65,000
		(b) 予算現額	15,999	40,007	18,000	16,000	65,000
		(c) 増減額(b-a)	2,999	27,007	0	0	0
		(d) 繰越額	—	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	15,999	40,007	18,000	16,000	65,000
	B. 執行済額		15,999	40,007	18,000	16,000	65,000
	うち交付金充当額		12,799	31,605	14,400	12,800	52,000
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画通りに執行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・芸術文化・伝統芸能公演の開催数	目標	(26回)	(26回)	(31回)	(30回)	
		実績	25回	28回	37回	30回	
	・お出かけ公演実施数	目標	(15回)	(12回)	(6回)	(20回)	
実績		10回	13回	23回	20回		
達成 明 況 説	・芸術文化・伝統芸能公演、お出かけ公演において、平成30年度に目標としていた数値はすべて達成することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (年度)
	①芸術文化・伝統芸能公演の集客数	目標	()	(2300)	(2500)	(3000)	()
		実績		5785	5695	13990	
	②お出かけ公演対象者数	目標	()	(4500)	(600)	(5000)	()
		実績		8270	4569	6032	
進 捗 状 況 説 明	①芸術文化・伝統芸能公演の対象者数は今年新たに行った美術展、フェスティバル事業(コーヒーフェス)が反響を呼び、目標数値を4倍以上上回る対象者の大幅増となった。 ②お出かけ公演は昨年同様、他の村内イベントと同時にを行うことによって目標対象者数を超え、増加した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)(Check)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)(Action)
取組の検証	①(芸術文化・伝統芸能公演) 対象者、入場者も重要であるが偏りのない多様な芸術・伝統芸能公演を実施する必要がある。	①これまでの事業の継続および拡大縮小、新規事業の企画を検討する。 ②お出かけ公演は単独や特定場所で行うだけではなく、異業種や様々な施設と連携することにより更なる相乗効果があると考えられる。
	②(お出かけ公演) お出かけ公演は、訪問先、日時、ジャンルによって事業効果や対象者数が大きく変化する。	
今後の取り組み方針(Plan)		
<p>①新規や継続事業の評価を行い、偏りなく多彩な文化芸術・伝統芸能に出会う機会を創出することを目的とし新年度事業を企画する。</p> <p>②お出かけ事業をこれまで同様に行うと同時に、さらに芸術文化・伝統芸能公演事業とリンク(文化講座や美術展を村内及び村外で同時開催)し、新たなターゲット層を獲得するなど相乗効果を模索する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
65,000	65,000	52,000	13,000	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先である実行委員会は、村内の各種団体の関係者で構成する委員会で、文化センター設立以来、がらまんホール事業の企画を行っており、委託先は妥当であったと考えている。</p> <p>○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。</p> <p>○使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値 (年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (年度)
	村内観光入域客数24万人以上	目標 () () () () ()	()	(20万人)	(21万人)	(24万人)
進捗状況説明	実績		25万人	22万人	27万人	
<p>・甲子園球場や、神戸で行った観光誘客プロモーション活動など、プロ野球春季キャンプを意識した関西誘客活動を展開。</p> <p>・イベント開催による誘客促進イベントの開催や、県内外からの入域客を対象とした県内アウトレットモールでのプロモーション活動では、村内物産展を合わせて実施することで本村をPR。プロ野球春季キャンプでのフラワーフェスティバルなどのイベントにて誘客促進を図った。</p> <p>・外部アドバイザーにより、整備されたHPの活用から、情報発信に必要な情報収集に関する改善、プロモーション活動時のヒント等について助言を受け、情報発信力向上に取り組んだ。</p> <p>・日本カヌー連盟をはじめ、県外体育協会や実業団、大学等を訪問し、スポーツ合宿の斡旋旅行代理店でのプロモーション活動を実施し、次年度以降の誘致に繋げていく活動を実施した。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅への観光情報センター設置により、各誘客プロモーションにおける本村の観光情報拠点をわかりやすい目的地として提示出来たことで、観光客にわかりやすくアプローチすることが出来、流入客数も増加傾向にある。 入域客の状況として、これまでプロ野球春季キャンプシーズンに観光客が集中する傾向がみられたが、道の駅ぎのぎのリニューアルをきっかけに、年間を通して国内及びレンタカーを利用したインバウンドの訪問が増加している。 観光客の目的(選択肢)の一つに入りつつある中で、沖縄を訪れる観光客により効率的なPRを行うための仕組みづくりが必要である。 今後は道の駅だけでなく村内の観光資源への誘導に取り組む必要がある。 インバウンド対応の受入強化も必要である。 スポーツ合宿では、実際に本村に所在するスポーツ施設等の視察ツアー等により、継続した合宿誘致等に繋げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで県外プロモーション活動がそれぞれの活動となっていたが、連動性を持たせる取り組みとして、各プロモーション活動に訪れる人(宜野座ファン)を生み出す仕組みを検討する。 観光客が沖縄を訪れる段階、又は検討する段階で本村の観光情報をどう受け取ることができるかを焦点にその方策について検討する。 道の駅を訪れる観光客に対して、村内観光資源への誘導をどう展開していくかを検討し、地域の活性化に繋げる。 インバウンド向け情報媒体の強化と発信力の強化を図る。 スポーツツーリズムの誘致については、施設の魅力を発信することと合わせ、視察ツアーにて実際に本村の施設と地域の環境を総合的に判断してもらうことで、長期的な利用を視野に入れた関係性が構築できる方策を検討する。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 県外プロモーション事業において、今年度は「阪神百貨店PR活動」を追加し、以降「宜野座フェアin甲子園」「やんばるプロモーションin神戸」を連動させるため、(一社)宜野座村観光協会が主催するプロモーション活動スタンプラリーを実施する。 外部専門家の助言を受け、訪れる国内、訪日外国人観光客への情報媒体の活用方法を踏まえながら情報発信力を高める。 スポーツツーリズムの誘致活動において体育連盟、協会、実業団、大学等関係者を招聘する「招致セミナー」を開催し、本村の体育施設、宿泊、食など周辺環境を見てもらい、継続した合宿誘致に繋げていく。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	48,387	48,387	38,710	9,677	0
<p>宜野座村 48,387千円</p>	<p>委託料 48,387千円</p>	<p>宜野座村 観光協会 48,387千円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プロモーション事業 ・観光プログラム開発事業 ・観光人材育成事業 ・イベント事業 ・外部専門家活動事業 ・スポーツツーリズム誘致事業 		

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村に特化した観光振興を担う事業所となっており、その目的、成果達成に向けて委託先の選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・使途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	宜野座村美ら島花火大会事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	観光商工課	事業実施 (予定)年度	平成28～令和元年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	秋の行楽シーズン、スポーツの盛んな季節において、宜野座村を訪れている観光客等に対し、宜野座村の観光資源である、プロ野球阪神タイガースのキャンプ施設等のある農村公園を中心とした場所において、大花火大会を開催し、ステージ等で宜野座村の魅力を発信することにより観光振興を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		6,000	6,504	6,504		
			6,000	5,960	6,504		
			0	▲ 544	0		
			0	0	0		
			6,000	5,960	6,504		
		B. 執行済額	5,976	5,960	6,130		
		うち交付金充当額	4,780	4,767	4,904		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	99.6%	100.0%	94.2%		
	予算の状況の説明	当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	花火打上	目標	(1,000発)	(1,000発)	(1,000発)		
		実績	1,000発	1,000発	1,000発		
	PRチラシの作成	目標	(35,000枚)	(35,000枚)	(35,000枚)		
		実績	36,000枚	36,000枚	36,000枚		
	警備員の配置	目標	(15名)	(13名)	(15名)		
		実績	15名	15名	15名		
	達成状況説明	PRチラシを作成し、新聞折り込みによる周知を図ることができた。当初は10月に2日間の日程で花火を打ち上げる計画だったが、初日は強風のため来場者の安全を第一に考え、打ち上げを中止し、最終日にまとめて打ち上げた。警備員の配置を行い、安全を確保することにより、花火を打ち上げることができたとともに、誘客につなげることができた。来訪者より好評の声が多かった。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度
美ら島花火大会集客数		目標	()	(12,360)	(10,000)	(10,000)	()
		実績		13,500	7,000	13,000	
進捗状況説明		宜野座村美ら島花火大会を開催することにより、入客数の目標値を達成することができ、宜野座村の魅力を発信することができた。					

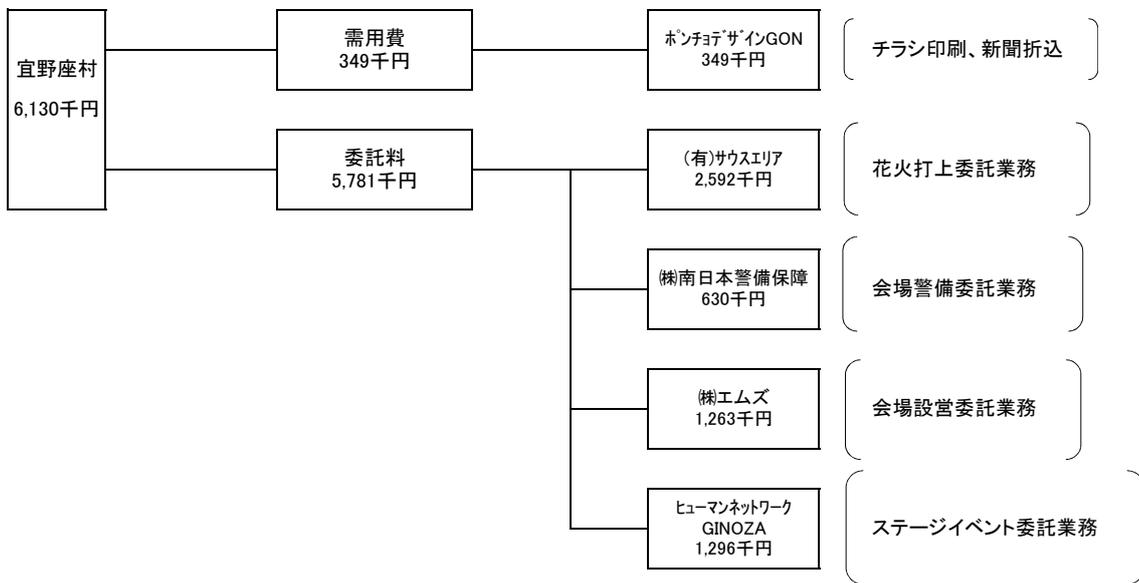
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①初日より風の強さは弱まりはしたが、花火カスの落ちるポイントが予想していた箇所以外に落ちたため、安全対策を強化する必要がある。</p> <p>②テーマ決めが遅くなったためチラシの作成も遅れ、周知も遅くなった。集客を増加させるため、例年より前倒して事業着手する必要がある。</p>	<p>①これまでの反省を踏まえ、事前に打上場周辺住民への対策周知を複数回行い、あらゆる想定を考え安全対策を強化していく。</p> <p>②更なる集客を図るために、例年より前倒して手続きや資料作成に取り組み、チラシやSNSなどにより1か月以上前から周知を行うことで村内入込客数の増に繋げる。</p>

今後の取り組み方針

- ①開催日程については、今後も秋の行楽シーズンである10月に2日間とし、年間の計画を立てる段階で台風等を考慮して2日間開催可能な予備日を検討する。
- ②事前に打上場周辺住民への対策周知を複数回行い、あらゆる想定を考え安全対策に取り組む。
- ③例年より前倒して手続きや資料作成に取り組み、チラシやSNS等を効果的に活用して周知を強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,130	6,130	4,904	1,226	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、指名競争入札により決定したため妥当であった。</p> <p>○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。</p> <p>○使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	パークゴルフ場施設機能強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-I
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度 平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 III-1-1(1)

事業内容
観光誘客を図ることを目的とする。パークゴルフ場の芝生の養生に必要な水量・水圧が足りない状況で養生管理に支障がある為、灌水設備を強化する。また、有事の際に来場客への安全誘導を行うため、放送設備を整備する。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H30年度					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	9,029				
		(b) 予算現額	7,204				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,825				
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	7,204				
		B. 執行済額	7,204				
		うち交付金充当額	5,762				
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。当初計画額より設計額が低くなった事、競争入札により設計額より入札額が低くなった為、3月補正で予算1,825千円を減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況			
		H30年度			
パークゴルフ場の灌水設備及び放送設備の整備 ・受水槽、散水栓の整備	目標	(受水槽、散水栓の整備)	()	()	()
	実績	整備完了			
パークゴルフ場の灌水設備及び放送設備の整備 ・放送設備の整備	目標	(放送設備の整備)	()	()	()
	実績	整備完了			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・受水槽2基設置、散水栓10ヶ所増設した。 ・ソフトホーンスピーカーを3基、2基と2箇所を設置した。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(30年度)	H30年度			目標値(R1年度)
		・受水槽、散水栓の整備	目標	()	完了	()
	実績		完了			
・放送設備の整備	目標	()	(完了)	()	()	()
	実績		完了			
【R1成果目標】 観光客、村民年間利用者数 29,700人	目標	()	()	()	()	(29,700)
	実績					

進捗状況説明
 整備完了は年度末を見込むため、定量的な成果目標設定なし。受水槽、散水栓、放送設備の整備を完了したことで、芝生の養生の質の向上が図れる。またBGM、有事の際の安全誘導が行える。機能強化により利用率の向上が見込めるため、平成31年度より利用者数の指標を設定し、増加を図る。

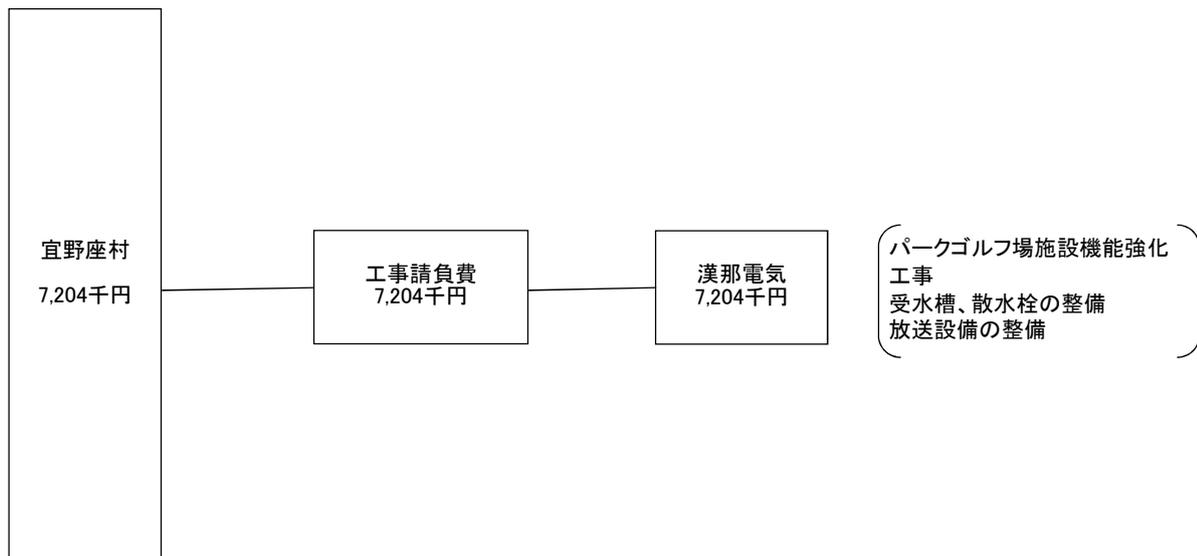
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生の養生に必要な水量、水圧が相当量足りない状況であった。 ・放送設備がなく、利用者へ連絡や案内ができなかったため、有事の際の備えが懸念された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受水槽、散水栓の整備により、養生の効率、芝生の質が上がった。 ・放送設備を設置したことにより、場内の利用者すべてに連絡、案内ができる。また、BGMとしての効果も期待できる。

今後の取り組み方針

観光誘客を図ることを目的としており、整備後の年間利用者数をもって観光誘客が図れているかを測定できると考える。機能強化により利用率の向上が見込める。平成30年度の利用者数は27,730人であった。平成31年度は10%増の29,700人を指標とし、今後も利用率の向上、増加を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,204	7,204	5,762	1,442	0



資金の用途の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ・予算規模については、見積りを徴収して精算しており、適正な規模であった。 ・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	小学校学力向上対策事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3

事業内容
 教師と連携を取りながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を3小学校に配置し、補習指導や個別指導など児童の学力に応じた個々の学習指導を行うなど、学習の基礎・基本の定着を図り学力の向上につなげる。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	7,680	9,920	13,440	15,360	15,360
	(b) 予算現額	7,012	9,920	13,440	13,440	13,218
	(c) 増減額(b-a)	▲ 668	0	0	▲ 1,920	▲ 2,142
	(d) 繰越額	—	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	7,012	9,920	13,440	13,440	13,218
	B. 執行済額	7,012	9,920	13,331	13,440	13,166
	うち交付金充当額	5,609	7,936	10,664	10,752	10,533
	次年度繰越額	—	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.2%	100.0%	99.6%
予算の状況の説明	当初の予定では学習支援員8人を配置することになっていたが、7人しか配置することができなかつたため、不用が生じた報酬から、2,142千円を減額した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		支援員配置数:8人	目標 (6)	(7)	(8)	(8)
	実績	6	7	7	7	
	【参考指標】 支援児童数	目標 (445)	(478)	(481)	(492)	
	実績	441	478	478	499	

達成状況説明
 学習支援員8人配置予定に対し、7人しか配置することができなかつたため、活動目標は達成することができなかつた。

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
		目標 ()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
		実績	国語A(3.6) 算数A(-1.9) 国語B(2.5) 算数B(1.1)	3年算数(-3.6) 4年算数(-6.3) 5年算数(-1.7) 6年算数(-2.7)	3年算数(-4.2) 4年算数(-1.6) 5年算数(-1.8) 6年算数(-1.5)	

進捗状況説明
 学習支援員を配置し学力の向上を図ったが、沖縄県学力到達度調査の結果、小学校3年~6年の算数において県平均を上回ることができず、目標は未達成となった。

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>沖縄県学力到達度調査において県平均を上回ることができなかったが、小学4年生及び6年生算数では前年度よりも平均正答率が上昇している学校があり、県平均との差も縮まっているなど、一部の学校においては改善がみられる。</p>	<p>沖縄県学力到達度調査結果の分析を行い、課題がどこにあるのか実態を把握し、補習授業や個別支援など基礎・基本的な学力の定着を図る。また、教師及び支援員の情報交換を密に行い、授業改善などに取り組む。</p>

今後の取り組み方針

沖縄県学力到達度調査の結果が県平均を上回ることを目標に、学習支援員を継続配置して基礎学力の向上を図る。また、定期的に担当教諭との情報交換を行うなど授業改善の取り組みを強化しながら、個別指導や補習授業を通して学力向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,166	13,166	10,533	2,633	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定については、学校教育指導主事の意見等も参考に面接を実施して選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学習支援配置の予算は、宜野座村学習支援員の報酬額により計上されている。支援員の配置人数についても、学校等のヒアリングにより決定しており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○児童の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要であると判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	中学校学力向上対策事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3

事業内容
 教師と連携を取りながら、チームティーチングによる生徒一人一人に応じたきめ細かい指導を行い、補習事業や個別指導による生徒の基礎・基本的な学力の定着及び学力向上を図るため、学習支援員(習熟度別対応支援員)を配置する。
 宜野座中学校:国語・算数・英語・理科・社会(各1名)

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	7,200	7,200	12,000	14,640	14,640
	(b)予算現額	6,807	7,200	11,200	12,151	14,640
	(c)増減額(b-a)	▲393	0	▲800	▲2,489	0
	(d)繰越額	—	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	6,807	7,200	11,200	12,151	14,640
	B. 執行済額	6,807	7,200	11,200	12,151	13,343
	うち交付金充当額	5,445	5,760	8,960	9,720	10,674
	次年度繰越額	—	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	91.1%
予算の状況の説明	精算時に実績を確認した結果、委託料1,297千円を減額、不用となった。					

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		支援員配置数:5人	目標 (3)	(5)	(5)	(5)
	実績	3	5	5	5	
	【参考指標】 支援生徒数	目標 (206)	(202)	(229)	(206)	
	実績	209	201	223	208	
達成状況説明	当初より学習支援員を5人配置し、中学校の生徒208人に対して担当教諭と連携を図りながら授業を行うことができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
			目標	(国語 数学 県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
			実績	中1数学(1.2) 中2国語(-3.7) 中2数学(-2.8)	中2国語(0.7) 中2数学(-6.2) 中2英語(-0.5) 中2理科(3.3) 中2社会(-4.7)	中2国語(8.7) 中2数学(9.9) 中2英語(9.6) 中2理科(8.4) 中2社会(4.4)	
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果、昨年度は県平均を下回っていた中2数学、中2英語及び中2社会についても県平均を上回り、5科目すべてで県の平均を上回ることができた。						

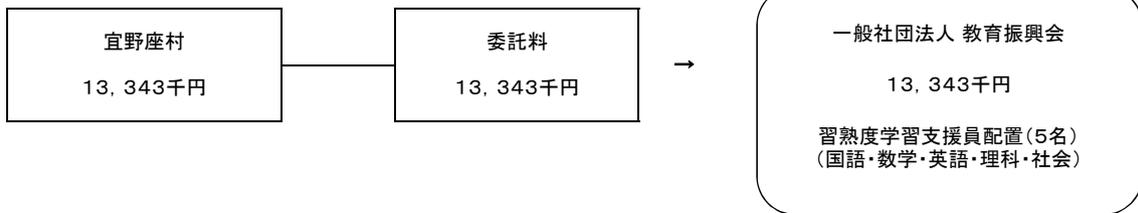
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	教科担任との連携を図りながら、生徒一人一人の学ぶ意識や目的意識の向上を図った。また、繰り返し学習を通じた基礎・基本の定着、確かな学力の向上に取り組み、中学2年生の5科目すべてで県平均を上回った。しかし、個別の支援を必要とする生徒への支援として、放課後の補習授業や個別指導の内容の充実を図る必要がある。	教科担任との連絡調整及び情報交換を密に行い、日頃の支援内容の報告や今後の指導方法について確認するなど、授業の改善を図るとともに、支援員の効果的な活用について教師及び支援員の共通理解を図る。

今後の取り組み方針

学習支援員を安定的に配置できるよう支援員配置業務を委託し、担当教諭と定期的に情報交換を行い授業改善の取り組みを強化する。学力到達度調査などの諸調査の分析結果から定着状況を把握し、個別指導や補習授業については個に応じた指導方法を工夫するなどして学力向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,343	13,343	10,674	2,669	0



資金の 使途の 流れ・ 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をポロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正であると考えている。 ○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いについては、出勤簿等を確認の上行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	幼稚園預かり保育事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3

事業内容
 ・幼稚園教育時間終了後に、公立3各幼稚園において午後の預かり保育を実施する
 ・親子が健やかで安心して日常生活を送れるような支援を充実するため、幼稚園において預かり保育を実施する

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	9,200	7,360	7,360	7,360	7,360
		(b)予算現額	8,331	7,125	7,360	6,248	9,080
		(c)増減額(b-a)	▲ 869	▲ 235	0	▲ 1,112	1,720
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	8,331	7,125	7,360	6,248	9,080
		B. 執行済額	8,331	7,069	7,250	6,248	8,488
		うち交付金充当額	6,664	5,655	4,666	4,998	6,790
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	99.2%	98.5%	100.0%	93.5%
		予算の状況の説明	・預かり保育担当員を2名増員したため、1,720千円を増額した				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		預かり保育員配置数:6名	目標	(4名)	(4名)	(4名)
		実績	4名	4名	4名	6名
達成状況説明	平成30年度目標の預かり保育担当6名配置を達成したため、受け入れ可能な保育定員が増え、利用希望世帯が十分に利用できる支援体制を整えることができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)		
		安心・安全に子供を預けることができ、育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%以上)を含め、対象となる幼児の保護者へのアンケートで事業のあり方を検証する。	目標	()			(80%)	()
			実績			100%		
			目標	()	()	()	()	()
		実績						
進捗状況説明	平成30年度は預かり保育担当職員を6名配置したことで、村内3か所の公立幼稚園にて預かり保育希望園児84名中84名全員を受入れることができ、受入率100%を達成した。アンケートでは育児の負担感が軽減されたと100%の保護者が回答した。							

市町村名	宜野座村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	宜野座村ジュニア海外語学研修派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界と共生する社会の形成		
事業内容	・夏休みを利用し、村内の中・高校生6名を英語圏へ短期間派遣し、語学研修を実施する ・英語学習への意欲を高め、異文化体験することにより、広い視野で物事を捉える人材育成を目指す						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,600	4,797	4,505		
		(b)予算現額	4,563	4,105	3,813		
		(c)増減額(b-a)	963	▲692	▲692		
		(d)繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	4,563	4,105	3,813		
		B. 執行済額	4,142	3,871	3,813		
		うち交付金充当額	3,261	3,096	3,050		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	90.8%	94.3%	100.0%		
	予算の状況の説明	・航空運賃、為替レート変動の関係で不用が生じたため、692千円の減額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	海外語学研修への派遣:中・高校生6人		目標 (6人)	(6人)	(6人)	()	
達成状況説明	・宜野座村に保護者が住所を有する中学2年生から高校3年生で英検3級以上、直近の成績が3.5以上の募集に対し、宜野座中学校から4名、県内の高校6校から19名、合計23名の応募者があった。 ・応募者の書類審査後、英検3級程度の筆記試験と面接を行った。試験の作成及び試験官、面接官は外部委託し、公平性を担保した。 ・選考委員会にて公平な選考を実施し、6名の研修生を選出した。選考は名前を伏せた状態でを行い、試験結果と学校の成績、推薦状などを加味し、より適性の高いものを選出することができた。 ・平成30年7月25日~8月14日の21日間、中・高校生6人をアメリカ合衆国・ハワイ州へ派遣することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
			目標	()	()	(80%)	()
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。		実績			83%	
進捗状況説明	・事業の振り返りとして、派遣生とその保護者にアンケートを行った。保護者のアンケート調査にて83%の満足度を頂き、目標が達成できた。						

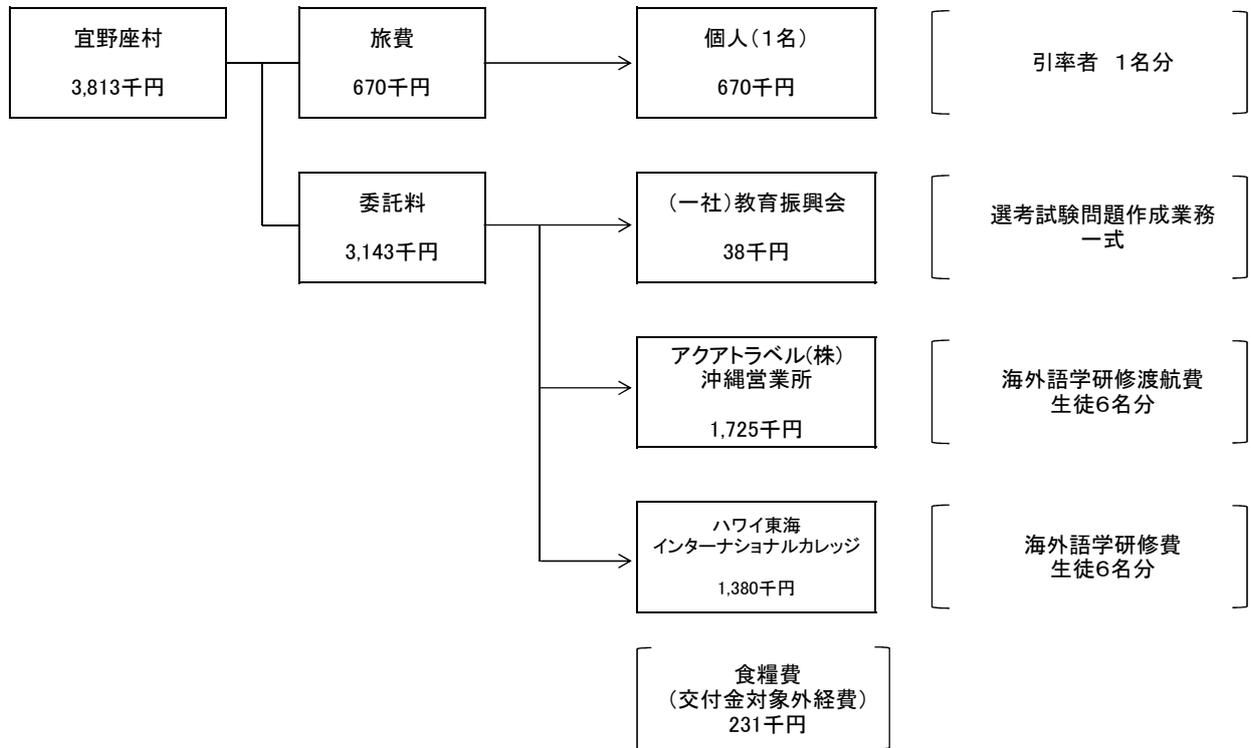
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って会話することに慣れるために、渡航前にALTとの英会話講座を行った。 ・ハワイでは、平日は現地大学にて語学研修及び大学寮に寄宿し、英語を必要とする環境下に身を置くことで英語学習への意欲を高めた。 ・週末は宜野座村人会員宅へホームステイ及び会員との交流会を実施し、現地の人とコミュニケーションをとることができた。 ・大学の授業においては、アメリカや移民の歴史、ハワイの文化についても学べるカリキュラムとした。 ・帰国後は村内の小中学校にて報告会を開催し、参加者の振り返りを促すとともにほかの児童生徒への情報共有を行った。 ・環境の変化に馴染めず、日本での日常が気になり集中力散漫になってしまったため、授業やホームステイ時に消極的な生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施内容としては左記のように実施しており、参加者及び保護者の満足度も高い。 ・本事業実施内容を基にして、メニューの充実や参加者のニーズに応じて微調整を行い、より高い満足度を目指す。 ・研修スケジュールや寮生活について具体的に想像できず、現実とのギャップがあったのではないかと考えられる。事前の説明会や研修等で研修スケジュールや寮生活など具体的な情報提供を行い、ギャップを小さくする取り組みが必要である。

今後の取り組み方針

・現地でのコミュニケーションをよりスムーズにし、研修生全員が同程度のレベルでコミュニケーションがとれるよう、募集条件に「英会話講座(3回)」および「事前オリエンテーションへの参加」を研修参加の必須項目へ追加する。
 ・ALT3名による英会話講座(3回)を行う。
 ・本事業趣旨への理解と異文化への適応力を高め、現地の研修へスムーズに入るために「事前オリエンテーション」を開催し、参加者OB・OG等から体験談を聞く機会を設ける。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,044	3,813	3,050	763	231



資金の 用途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は派遣者決定から航空券確保まで短い日程で行うことから、3社見積もりを徴収し最低価格業者であるアクアトラベルと随意契約を行った。また短期語学研修プログラム等を実施していることから、ハワイ東海インターナショナルカレッジと随意契約を行った。 ○予算規模は適正であった ○受益者との負担関係は妥当であった ○費目、用途については検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	有機の里宜野座村確立事業	平成24～令和3年度	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ
	担当部課名			産業振興課	事業実施(予定)年度

事業内容

①有機の里推進協議会を開催し、エコ農産物の生産販売拡大に向けた取り組みについて協議を行う。
 ②農業栽培指導技術員により、農家に対し栽培指導(土づくり、害虫防除方法、台風対策等)を実施し安定した農産物の生産につなげる。
 ③販売戦略推進員が、大手スーパーや卸売業者と交渉し需要のある品目を把握するとともに販売先を確保をする。また、農業栽培技術員や農家と連携して有望な栽培品目について生産体制を構築する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	23,842	12,052	11,661	11,431	11,431
		(b) 予算現額	11,652	11,433	11,321	11,431	11,306
		(c) 増減額(b-a)	▲ 12,190	▲ 619	▲ 340	0	▲ 125
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	11,652	11,433	11,321	11,431	11,306
		B. 執行済額	11,519	11,336	11,315	11,301	11,306
		うち交付金充当額	9,215	9,069	9,051	9,040	9,045
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	98.9%	99.2%	99.9%	98.9%	100.0%
		予算の状況の説明	計画どおり事業を実施した。報償費33千円、需用費92千円の執行残が生じたため125千円を減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		エコファーマーの認定に向けた栽培指導及び生産拡大	目標	(480回 120トン)	(480回 120トン)	(480回 130トン)
	実績	497回 90トン	503回 92トン	542回 116トン	554回 101トン	
達成状況説明	農業技術員による有機農法及びエコファーマー認定の栽培指導回数の目標480回に対して、554回の指導を行うことが出来た。しかし、生産農家の体調不良や昨年9月末から10月初旬にかけて襲来した台風24号・25号の影響で生産量については目標の135トンを大きく下回る101トンという結果となり目標に達することが出来なかった。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)		
		エコファーマーの認定数	目標	()	(2名)	(2名)	(2名)	()
			実績		2名	2名	2名	
		エコ農産物販売量	目標	()	(120トン)	(130トン)	(130トン)	()
実績			90トン	116トン	101トン			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> エコファーマーの認定者は2名となった。 エコ農産物販売量については、前年度から減少し目標に届かなかった。 							

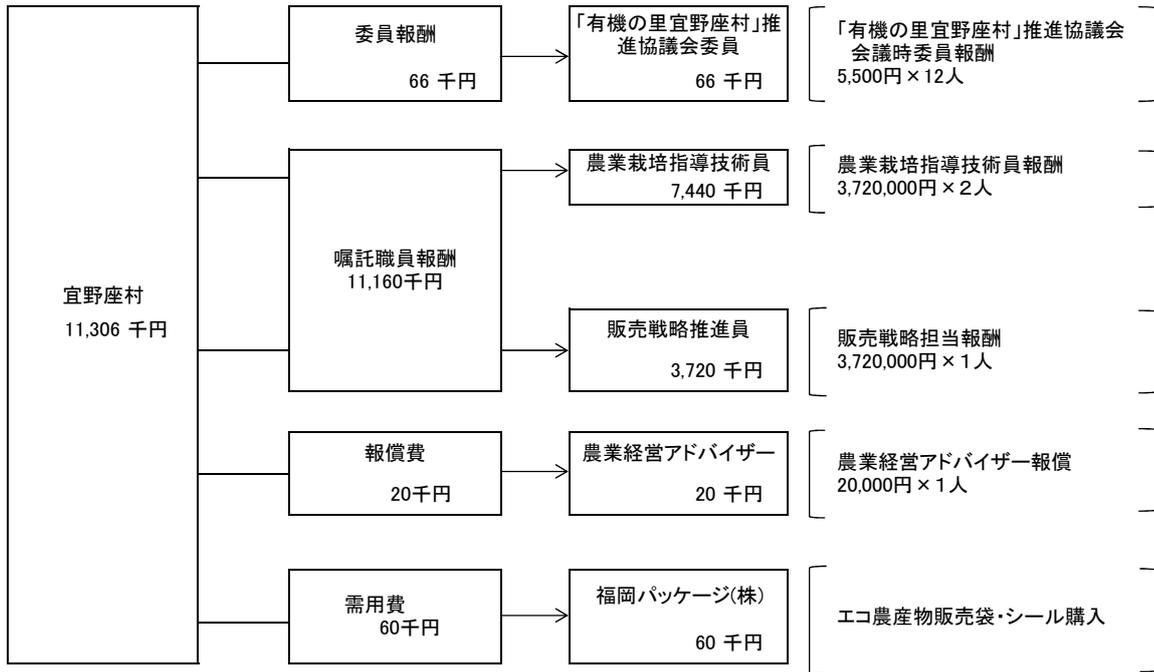
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(エコファーマーの認定数) ・エコファーマー認証について生産農家の認識の高まりと専門指導員のアドバイスもあり、目標を達成できたと考えている。	(エコファーマーの認定数) ・エコファーマー認定農作物の生産安定・生産拡大を図るため、農業技術営農指導を行っており、エコファーマー認定者は計画通り増加している。 R3目標:30名 H24~H30実績:34名
	(エコ農産物販売量) ・台風等の影響に加え、生産農家の体調不良により生産が行えない事態も発生したこともあり農産物販売量は101トンとなり約78%の達成率となった。	(エコ農産物販売量) ・災害に強い営農を推進するため園芸施設担当者と連携して補助事業の導入を検討する。 ・エコ農産物が消費者に認知され、有利販売につながるように周知活動を継続していく。

今後の取り組み方針

- (エコファーマーの認定数)
・引き続き認証取得のメリットを生産農家に周知し、認証取得者を増やすとともに再認定を推進する。
- (エコ農産物販売量)
・引き続き、農業栽培指導技術員による栽培指導を行い、通年安定した農作物の生産並びに生産拡大を図る。
・新たな推奨作目の検討に力を入れ宜野座村の環境にあった農作物の生産を拡大していく。
・消費者の認知度向上を図るため販売先でのポップ利用やチラシ配布など周知活動の強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,306	11,306	9,045	2,261	0



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○エコファーマーラベル製作については見積を徴取し最低見積業者に印刷発注したので妥当であったと考える。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委員報酬・嘱託職員報酬・農業経営アドバイザーの報償費の金額については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき実施したので妥当であるとする。
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	農業用観光施設モデル整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ
担当課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~令和元年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)

事業内容
 農業用観光施設(イチゴハウス)を整備することによりイチゴ栽培農家の増加を促し、年々増加傾向にあるいちご狩り来客数の更なる確保を目指し、観光型農業による本村の観光の振興、「イチゴの里」のPRを図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	46,995	0	55,252	51,273
(b) 予算現額	31,449	0	55,252	64,091		
(c) 増減額(b-a)	▲ 15,546	0	0	12,818		
(d) 繰越額	15,506	15,506	-	-		
A. 計(b+d)	46,955	15,506	55,252	64,091		
B. 執行済額	31,449	14,904	55,188	50,716		
うち交付金充当額	20,127	9,538	35,320	40,572		
次年度繰越額	15,506	0	0	0		
執行率(%) (B/A)	67.0%	96.1%	99.9%	79.1%	#DIV/0!	
予算の状況の説明	当初計画していたハウスの規模が1,980㎡と縮小となったが、坪単価が高騰している作業棟(プレハブ)の規模が68㎡と規模拡大となったため12,818千円の増となった。 13,375千円の不用額については、指名競争入札の残によるものであり、当初計画していた事業内容を実施できたので適正だったと考える。					

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		ハウス整備 2,340㎡	目標 (1棟)	(1棟)	(1棟)
	実績	1棟	1棟	1棟	
	作業棟整備 50㎡	目標 (1棟)	(1棟)	(1棟)	()
	実績	1棟	1棟	1棟	
達成状況説明	ハウス整備及び作業棟整備においては、早期の工事着工に取り組むことができ、イチゴ苗の植え付け時期に合わせたハウス整備を完了できた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R1年度)
		イチゴ狩り来場者数 5,300人	目標 (3,000人)	(3,000人)	(5,300人)	()
		実績	2,400人	100人	5,673人	
	【参考指標】イチゴ出荷量	目標 ()	(2,700kg)	(2,700kg)	()	()
	実績		4,500kg	1,890kg		
進捗状況説明	来場者数については、平成30年12月から平成31年4月までの目標値5,300人に対し、実績値5,673人となり目標を上回った。					

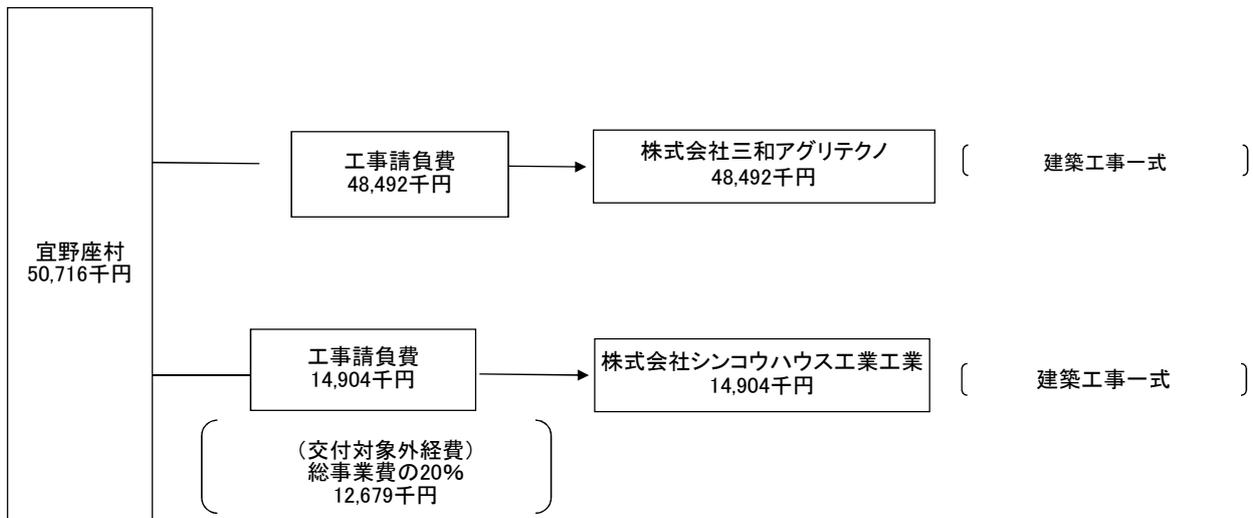
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り農業用観光施設(イチゴハウス)を整備することで概ね見込んだ通りの来場者数となった。 受入可能数を上回る問い合わせがあり、受入を断ることも多々あった。 イチゴの最盛期に合わせた誘客についての取り組みが必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 村内のイチゴ農家の増加に伴い、イチゴの生産量、出荷量も増えている。今後も栽培技術の向上、後継者育成に努め、イチゴ狩り来場者の受入可能人数を増やす。 プロ野球の春季キャンプと組み合わせた観光メニューを検討する。 新聞やインターネット等を活用したPRを行うとともにホームページの見直しや予約システムの導入を検討する。

今後の取り組み方針

- ・村農業後継者等育成センターの卒業生がイチゴ栽培に従事できる仕組みを整え、供給量の増加を図っていく。
- ・イチゴの専門家を講師として招き、農家へ栽培管理の指導を行い、さらなる技術や品質の向上、生産量拡大を図る。
- ・イチゴ狩り受け付け用ホームページに英語表記の整備を行い、外国人観光客の対応を強化する。また予約システムを導入し観光客の受入体制を整備する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
63,396	50,716	40,572	10,144	12,680



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○設計委託料及び請負工事費の業者選定は、本村指名委員会で選定した業者を指名し、競争入札を実施しており、妥当であったと考える。 ○単年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○受益者である農家から総事業費の2割を負担しており、事業内容等を判断しても妥当であったと考える。 ○費用・用途については、事業目的の観点から、必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 宜野座村

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (3-3 さとうきび営農指導委託事業), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-3-(7)-(エ)), 担当部課名 (産業振興課), 事業実施(予定)年度 (平成28~令和2年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (III-1-(1)), 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定等の強化

事業内容: 本村の基幹作物であるさとうきび生産の活性化のため、営農指導員による管理作業の指導を行い増産を図る。また新規栽培農家へ指導を充実させることで担い手の確保を図る。

効果発現年度: 当年度 () 後年度 ()

実施方法: 直接実施 () 委託 () 補助 () 負担 () その他 ()

Table with 7 columns: 予算額・執行額 (単位:千円), H28年度, H29年度, H30年度, R1年度, R2年度. Rows include (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額(b-a), (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), and 予算の状況の説明 (当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。)

Table with 6 columns: H30活動目標(指標), H28年度, H29年度, H30年度, R1年度. Rows include 適期管理作業の指導 and 新規栽培農家への直接指導. Includes 達成状況説明: 生産農家を巡回し、営農指導員による適期管理作業の指導を行った。新規栽培農家へ一連の作業工程における指導を営農指導員が直接行った。

Table with 7 columns: H30成果目標(指標), 基準値(年度), H28年度, H29年度, H30年度, 目標値(年度). Rows include 平成30年生産量5,264t以上 and 進捗状況説明: 生産量については、平成30/31年期の目標値5,264tに対し、実績値5,103tとなり達成率は約97%となった。

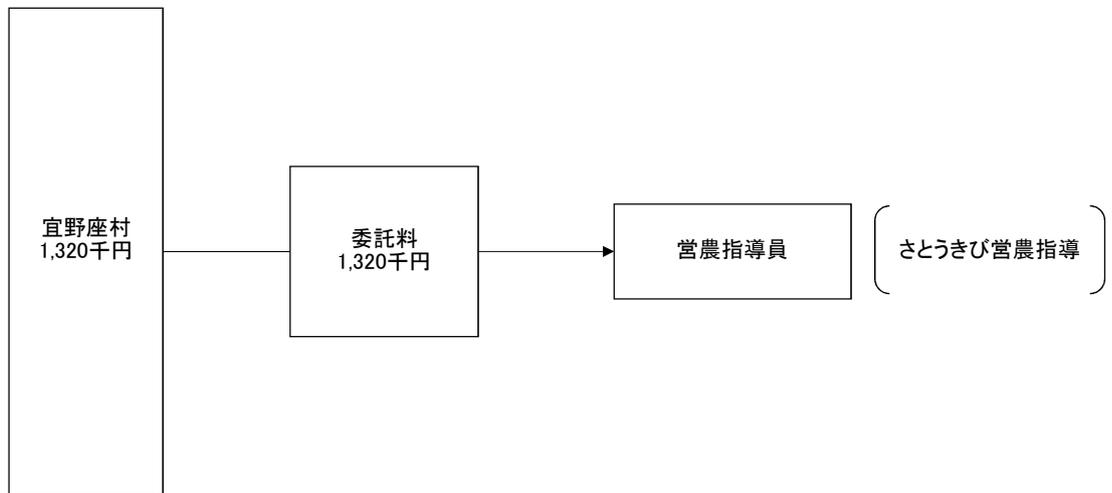
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の影響により目標生産量を達成することができなかった。 ・台風直後は4,589tと大きく減産見込だったが、実績は5,103tと見込より約500t多く収穫できた。営農指導員の台風前後の適正な指導により被害を最小限にとどめることができ、かつ5,000t以上の生産量を維持できたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・営農指導員による管理作業の指導を早期に実施し、管理体制を強化する。 ・営農指導員は個別の指導だけでなく地域生産組合等の会議へ参加し、情報共有、栽培方法について指導を行うなど支援範囲の拡大を図る。 ・引き続き、営農指導員による自然災害に対する指導を行うことにより、被害を最小限にとどめる。

今後の取り組み方針

・今後も営農指導員による適期管理作業の指導の実施、新規栽培農家への指導の実施、自然災害対策を実施し本村におけるさとうきび生産の活性化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,320	1,320	1,056	264	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託者はさとうきび栽培の知識や経験が豊富である個人と随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○宜野座村嘱託職員・報酬月額表及び賃金基準表を基に実施している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	観光景観向上対策事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度 平成27~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全
				Ⅲ-10-(1)

事業内容
 村指定の観光地への進入路やその周辺に不法投棄がある。その景観が損なわれているため、監視員を配置し定期的にパトロールし、放置された不法投棄物の即時撤去を効率的に実施することで景観向上を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

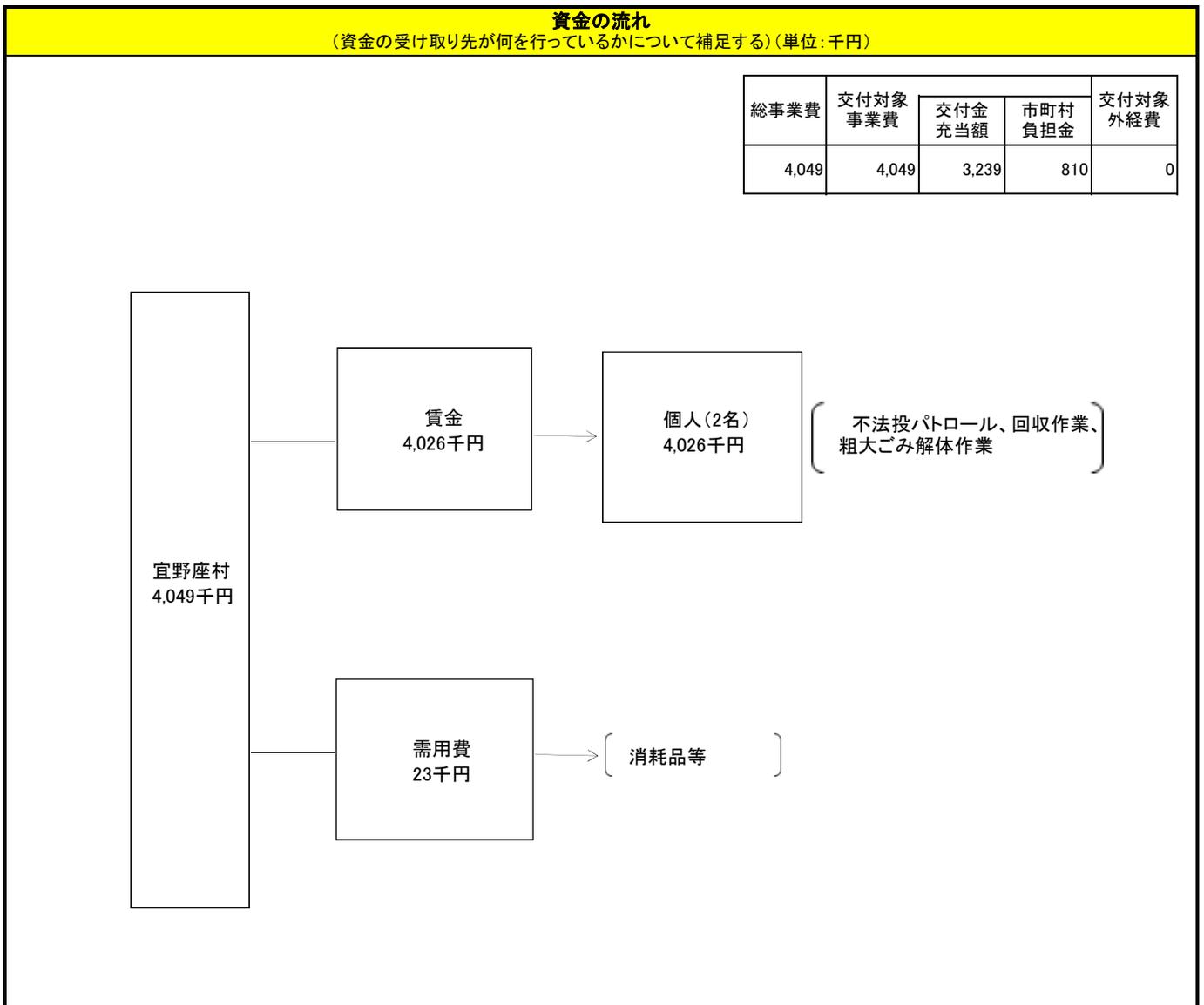
実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)	23,659	4,040	4,040	4,040		
		19,217	3,910	3,923	4,049		
		▲ 4,442	▲ 130	▲ 117	9	0	
			0	0	0		
		19,217	3,910	3,923	4,049	0	
	B. 執行済額		19,217	3,910	3,923	4,049	
	うち交付金充当額		15,373	3,128	3,138	3,239	
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!
	予算の状況の説明 当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。						

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
・不法投棄監視カメラ及び観光箇所を中心にパトロールの強化。	目標	(パトロールの実施)	(パトロールの実施)	(パトロールの実施)	()
	実績	(パトロールの実施)	(パトロールの実施)	(パトロールの実施)	
・ユニック付き3t車での不法投棄回収。	目標	(不法投棄回収)	(不法投棄回収)	(不法投棄回収)	()
	実績	(不法投棄回収)	(不法投棄回収)	(不法投棄回収)	
・フォーク付きユンボでの粗大ゴミ解体作業	目標	(粗大ゴミ解体)	(粗大ゴミ解体)	(粗大ゴミ解体)	()
	実績	(粗大ゴミ解体)	(粗大ゴミ解体)	(粗大ゴミ解体)	
達成説明状況 これまで不法投棄のあった場所に設置されている監視カメラ周辺、観光箇所を中心にパトロールを強化しながら、これまで不法投棄されているゴミの回収、粗大ゴミ解体作業を継続して実施している。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	・観光地における不法投棄の減少10件/年	目標	()	(10件/年)	(10件/年)	(10件/年)	()
		実績		0件/年	0件/年	2件/年	
進捗状況説明 観光地における不法投棄が目標値10件に対し、実績値2件となり目標を達成できたが、昨年度より増加した。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・パトロールの実施、監視カメラの設置等を行ったことで観光地における不法投棄数は目標の範囲内に収まったと考えられるが、依然として監視カメラ設置場所以外での不法投棄がある。 ・不法投棄廃棄物を撤去・回収することで便乗投棄が抑制されていると考える。 ・漢那ダムまつりにて宜野座村の自然や景観についてのアンケート調査において、景観に対する満足度で「満足」「やや満足」との回答が90%となっており、良好な景観が維持できていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・監視カメラ設置場所以外での不法投棄を抑制する取り組みが必要である。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会等の地域住民の協力を得ながら定期的にパトロールを実施する。監視カメラの移動、ダミーカメラや注意喚起看板の設置を検討する。 		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、業務に従事する資格に合致しているため妥当であった。 ○賃金は、村の予算編成資料・賃金(傭人料)基準表により、支払われているので、妥当だと考える。 ○消耗品も必要最小限購入にされていて、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-② 危険生物駆除捕獲事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(1)-イ		
	担当部署名	村民生活課		事業実施(予定)年度 平成27~令和3年度		陸域・水辺環境の保全	
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-10-(1)	
事業内容	<p>ハブ以外に最近近隣市町村で確認されている外来種のタイワンハブやタイワンスジオ、ハチ等が村内で発見されていることから、観光客や修学旅行生の咬傷事故を事前に防ぐため、積極的に捕獲・駆除を行うことで、観光地としての安心・安全を図る。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,638	3,730	3,750	3,707	
		(b) 予算現額	5,638	3,258	3,570	3,707	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 472	▲ 180	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	5,638	3,258	3,570	3,707	0
	B. 執行済額		5,638	3,258	3,570	3,707	
	うち交付金充当額		4,510	2,606	2,855	2,965	
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!
予算の状況の説明		需用費から賃金へ組替をしたが、軽微な変更で事業は計画通り実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	観光各所のパトロール:12回/月	目標	(12回/月)	(12回/月)	(12回/月)	(12回/月)	
		実績	12回/月	12回/月	12回/月	12回/月	
	パトロール・ハブ捕獲器設置場所:村境界付近150箇所	目標	(50箇所)	(50箇所)	(50箇所)	(150箇所)	
		実績	194箇所	173箇所	85箇所	200箇所	
	ハチ等の捕獲・駆除体制の整備	目標	(整備完了)	(整備完了)	(整備完了)	(整備完了)	
		実績	整備完了	整備完了	整備完了	整備完了	
	達成状況説明	<p>継続して臨時職員を2名雇用し、ハブ捕獲器にて捕獲・駆除を行った。また、マウスを飼育・繁殖し、誘因餌を確保している。当初の目標としていた設置場所目標の150箇所は、捕獲数が少なかったため、目撃情報を等を中心に200箇所に増設した。 ハチ対策については、パトロールを強化するとともに、情報が寄せられた場所に出向き駆除を行った。</p>					
	成果目標(指標)及び進捗状況			基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度
観光地におけるハブの咬傷被害件数:0件		目標	()	()	()	(0件)	()
		実績				0件	
進捗状況説明	観光地におけるハブの咬傷被害件数は0件であった。						

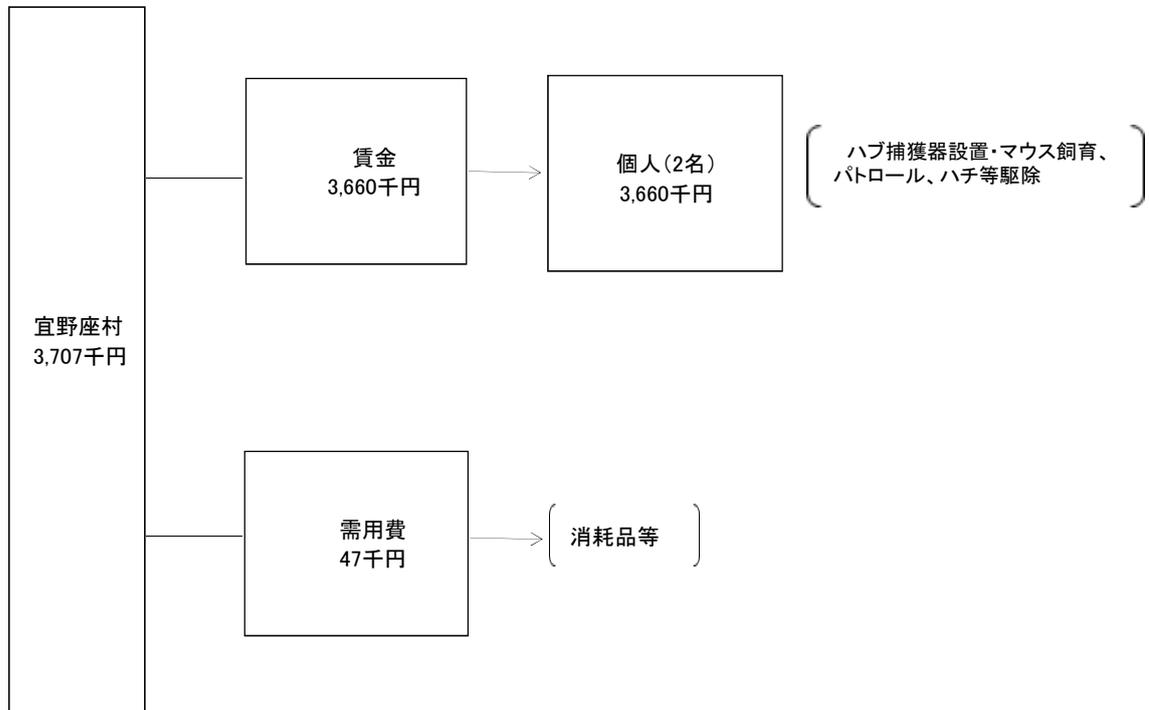
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	パトロールやハブ捕獲器を設置により、観光地におけるハブの咬傷被害件数は0件となり、地域住民や観光客等の安全が図られている。	沖縄県が主催するハブ捕獲講習会を参考にし 捕獲箱の位置を目撃情報のある場所へ移動するなどの対応が必要である。

今後の取り組み方針

ハブの捕獲器を目撃情報が寄せられた場所へ新たに設置するなど、効果的に捕獲し継続的に駆除することにより、個体の減少・拡散防止・人体被害を未然に防ぎ、観光客や修学旅行生の安心・安全確保につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,707	3,707	2,965	742	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、業務に従事する資格に合致しているため妥当であった。 ○賃金は、村の予算編成資料・賃金(備人料)基準表により、支払われているので、妥当だと考える。 ○消耗品も必要最小限購入にされていて、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	宜野座村企業誘致推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ア	
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	情報通信関連産業の立地促進	
事業内容	雇用創出の促進に向けた県外IT企業を立地を推進するため、企業の求める広報普及活動、企業誘致活動等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,979	17,462	14,160		
		(b) 予算現額	7,979	17,457	14,160		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲5	0		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	7,979	17,457	14,160		
	B. 執行済額		7,972	17,457	14,160		
	うち交付金充当額		6,377	13,965	11,328		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.9%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		事業計画通りに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	招聘ツアーの実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	企業誘致ブースの出展	目標	()	(実施)	(実施)	()	
実績			実施	実施			
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・本村への招聘ツアーを11月に実施した。 ・企業誘致ブースを10月の日経XTECH EXPO2018において出展した。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	企業招聘ツアーの参加者20人	目標	()	(20人)	(20人)	(20人)	()
		実績		16人	25人	20人	
	企業誘致ブース来場者	目標	()	()	(200名)	(200名)	()
		実績			164名	200名	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・企業招聘ツアーにおいては、昨年度も関東・中京・関西の各地域からバランスよく参加いただけたことから、目標値を達成することが出来たが、新規企業誘致には至っていない。 ・企業誘致ブースの来場者は前年度から増え、目標を達成することができた。 					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致ブース来場者数、企業招聘ツアーの参加者数ともに目標を達成することができたのは広報活動が効果的に働いたからだと考える。 ・課題としては、村への企業誘致に至っていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外へのPRや進出検討中の企業へのフォローアップ営業等を引き続き実施していく。 ・人材確保や立地条件(通勤の利便性や都市部へのアクセス等)の懸念事項を解消する取り組みが必要である。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業による接触企業に対して継続してフォローアップ営業を実施する。 ・入居先の施設については段階的に改修を行っており、H30年度に無停電電源装置の更新を完了し、R1年度は自家発電の更新を計画しているため施設設備の安全性についてもPR材料として活用していく。 ・本事業を活用して企業誘致推進を図りつつ、村独自の事業化が難しい助成制度や人材確保については、沖縄県の事業を活用を検討するとともに、これまで連携してきた名護市に加えて、今年度より新たに金武町・うるま市と協議会を立ち上げ、企業誘致や人材確保といった3市町村共通の課題解決に取組み、各関係機関との連携を強化し企業誘致を推進する。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,160	14,160	11,328	2,832	0
<pre> graph LR A[宜野座村 14,160千円] --> B[委託料 14,160千円] B --> C[一般社団法人 宜野座村サーバーファーム 14,160千円] C --- D(宜野座村企業誘致促進事業委託業務) </pre>				

資金の流 れ、費 目・使 途の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、本村に特化した企業立地を推進する事業所となっており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。 ・人件費、旅費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表や旅費規程内であるため妥当であるとする。 ・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	世界のギノザンチュ子弟研修生受入事業	平成29～令和3年度	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア
				沖縄振興基本方針 該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度			Ⅲ-7

事業内容
宜野座村出身者海外移住者子弟4名を招聘し3ヶ月間の研修(日本語講座、文化講座、琉舞研修)を実施し、村民と交流することで沖縄文化の継承および次世代ネットワークの構築に繋げる。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	5,997	5,998			
		(b) 予算現額	5,997	5,998			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	5,997	5,998			
	B. 執行済額		4,758	5,197			
	うち交付金充当額		3,806	4,157			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		79.3%	86.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明		計画通り予算執行できた。不用額801千円は講座のコマ数の減に伴い講師謝礼金も減少したためである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況			
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		宜野座村出身者海外移住者子弟4名を招聘し、3ヶ月間の研修を実施する。	目標 (実施)	(実施)	()
	実績	実施	実施		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・宜野座村出身の海外移住者子弟をペルー、アルゼンチン、ブラジル、アメリカ・ハワイ州からそれぞれ1名受け入れ、村内を中心に3ヶ月間の研修を実施した。 日本語講座(8月)、文化講座、琉舞研修(9～10月)を実施。 また、研修期間中、研修生は村内保育所(園)をはじめ、村立小・中学校、青年会、地域のお年寄りとの交流を行ったことで、幅広い年齢層との親睦を深め人的ネットワークの構築と多様な交流の推進に努めた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)		
			受け入れた研修生が沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%以上)を含めたアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標 ()	()	(80%)	()	()
			実績			100%		
進捗状況説明	・研修生の関心度合いについては、100%が向上したとの回答であった。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>琉舞研修や文化講座を通して沖縄の文化や歴史を学び、地域行事での若者同士や親族との交流で自分自身のルーツを知ることができたことにより、関心度の向上につながったと考える。しかし、日本語能力や身元引受人の確保等今後の課題もある。</p> <p>(日本語能力) ・本事業は、実施33年目を迎え、各国村人会と村民との次世代交流が活発になってきているが、研修生として受け入れる子弟が3世～5世となり、交流のツールとなる日本語能力が課題となっている。</p> <p>(身元引受人の確保) ・村内で研修生を受け入れる側の親戚(家族)の高齢化や他市町村への転出により、研修生の受入親戚(家族)の確保が困難になってきている。</p>	<p>地元の方たちとのコミュニケーションを通して文化を学んでいきたいとのアンケート結果もあることから、それに積極的に地元行事等への参加をさせていく。</p> <p>(日本語能力) ・研修生は、歴代研修生たちから基本的なあいさつやよく使う日本語のフレーズなどを事前に教授してもらうよう村人会に伝え、研修を迎えるまでの期間に語学習得に努めさせる。また、事業担当者としても研修生との会話を可能な限り日本語できるように心がける。</p> <p>(身元引受人の確保) ・身元引受人(受入親戚)の確保については、民泊を行っている村民や青年国際交流員に対して協力を呼びかけ、ホームステイ形式ができるよう対応していく。平成30年度は、研修生の一人が親戚による身元引受が困難だったため、青年国際交流員に依頼をして対応した。</p>

今後の取り組み方針

村民の本事業に対する関心が高く、普段から研修生に対し声掛けや行事等への参加要請でコミュニケーションの場が多く、村民の国際交流思想の高揚並びに子弟研修生の属する国と本村との友好親善に寄与し次世代ネットワークの構築に寄与している。今後とも事業を継続し、毎年4人の研修生を受け入れ村と関係4か国との友好親善に繋げる。

(日本語能力)
出国前に日常会話レベルの日本語が話せるよう研修生に学習させるとともに、今後とも村民との交流の場を積極的に設け、日本語講座で習得した語彙が定着できるよう促す。

(身元引受人の確保)
・身元引受人(受入親戚)の確保が困難な場合は、民泊を行っている村民や青年国際交流員に対して協力を呼びかけ、ホームステイ形式ができるよう対応していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	
		5,967	5,197	4,157	1,040	770	
宜野座村 5,197千円	賃金 672千円	賃金職員1名(本事業事務補助) 672千円					
	報償費 525千円	講師陣 525千円					講師謝礼金 525千円
	旅費 67千円	県内旅費 67千円					
	需用費 413千円	事務用品、印刷製本費等 413千円					
	役務費 457千円	郵送料、医療費等 457千円					
	使用料 735千円	施設使用料、入場料等 735千円					
	委託料 1,848千円	アクアトラベル沖縄営業所 1,848千円					研修生渡航費 1,848千円
	助成金 480千円	研修生受入親戚 480千円					受入親戚宿泊助成金 480千円

資金の 流れ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、複数旅行会社との見積比較を実施した結果による最安料金の旅行会社と随意契約を行った。 ○不用額は事業費の約10%であり適正な規模であった。 ○受益者である研修生にとって必要最低限の支出となっており、私的な費用については、本人負担としており、妥当であった。 ○費目、使途については、目的に即し、必要なものだと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	